

令和元年度 事業報告

社会福祉法人
県西福社会



令和元年度 事業報告（前文）

令和元年度を振り返って

前年の平成30年度は施設開設以来、経験したことのない「求人難」に直面しましたが、令和元年度もその局面は打開できず、職員の確保に追われる1年となりました。

従来の求人広告に加えて、求人専門会社との接点を築くとともに、モンゴルからの外国人技能実習生の受け入れに踏み切るなど、求人前線を拡大してまいりました。

施設運営は、人材確保が全てであり、今後もあらゆる努力を注いでいかなければならないと考えております。

この他、事業の展開局面では、重度の障害者が入居するグループホームに「スプリンクラー」を設置するとともに、将来にわたって利用者の安心に資する観点から、井戸掘削による給水設備の整備に取り組みました。

なお、世界恐慌となっている「新型コロナ」問題には、全てに優先した対策を講じ、感染防止に万全を期してまいります。

社会福祉法人県西福祉会
理事長 松本信輔

◆◇◆ 目 次 ◇◇◆

経営方針	
足柄療護園・県西福祉センター・プレアデスの概要	... 1
1. 理事会・評議員会	... 2
2. 主要行事	... 3
3. 組織体制	... 4
4. 職員状況	... 5~7
5. 足柄療護園の状況	... 8~12
6. 県西福祉センターの状況	... 13~14
7. プレアデスの状況	... 15~17
8. プレアデスホームの状況	... 17
9. ふくらんの販売状況	... 18
10. ボランティア活動の状況	... 19
11. 健康管理の状況	... 20
12. 給食の状況	... 21
13. 権利擁護の状況	... 22
14. 安全管理の状況	... 23
15. コミュニティ(地域交流)の状況	... 24
16. 広報の状況	... 24
17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他	... 25
令和元年度 部門別重点実施事項実施報告	... 26~27

★経営方針

《 使命 》 職員的情熱と地域社会の支持によって
利用者安心の施設を目指します

《 基本理念 》

私達は、自らの使命を認識しながら、そこに辿り着くため、施設運営に当たっては、その基本理念を**自主・参加・安心**と定めます。私達の施設は、集団生活を避けることはできませんが、集団生活の故に発生しがちな「管理」、「画一」、「指示」、「規制」を極力、排し、利用者個々人の「自主性、主体性」を尊重し、当事者としての「参加」と「決定」を大切にしながら、家族ともども「安心感」のもてる生活の場を築きます。

自主・参加・安心

《 長期目標 》

利用者満足の実現

福祉プロ集団への進化

地域福祉の活性化

★足柄療護園・県西福祉センター・プレアデスの概要

令和2年4月1日現在

足柄療護園 (障害者支援施設)	県西福祉センター (障害者通所施設)	プレアデス (障害者通所施設)	プレアデスホーム (障害者グループホーム)
施設入所支援 60名	生活介護 30名	生活介護 15名	共同生活援助 36名
生活介護 60名	機能訓練 6名	就労B型 30名	
短期入所 6名	就労B型 15名	日中一時 15名	
	相談支援	相談支援	

◆ 沿革 ◆

平成11年 8月	社会福祉法人県西福祉会 法人認可
平成13年 4月	身体障害者療護施設足柄療護園 開設 身体障害者デイサービス県西福祉会センター 開設
平成18年10月	生活介護事業・相談支援事業 開始
平成19年 4月	自立訓練(機能訓練)事業 開始
平成20年 4月	障害者支援施設(生活介護)へ事業移行
平成20年 7月	就労継続支援B型事業 開始
平成22年 4月	プレアデス(生活介護・就労B・共同生活援助)事業開始 プレアデス日中一時事業(小田原市・南足柄市)事業開始
平成24年 4月	県西福祉センター生活介護棟開設 / プレアデス福泉事業所開設
平成24年 7月	プレアデスホーム いずみホーム開設
平成25年 4月	プレアデス福泉 製造棟開設
平成25年 7月	プレアデス福泉「ふくらん」開設
平成26年 4月	プレアデスホーム やまさきホーム「シリウス」「リゲル」開設
平成27年 3月	プレアデスホーム やまさきホーム「カペラ」「スピカ」開設

1. 理事会・評議員会

(1) 理事会

第1回	5月24日	第1号議案 平成30年度 事業報告(案)について 第2号議案 平成30年度 決算報告(案)について 第3号議案 令和元年度補正予算(案)について 第4号議案 スプリンクラー設備の設置(案)について 第5号議案 令和元年度 基盤整備小委員会の設置(案)について 第6号議案 令和元年度 第1回評議員会の開催(案)について	全員出席
第2回	6月14日	第1号議案 理事長の選定(案)について	全員出席
第3回	8月26日	第1号議案 外国人労働者の受け入れ(案)について	全員出席
第4回	10月25日	第1号議案 令和元年度 資金収支2次補正予算(案)について 第2号議案 令和元年度 事業中間報告(案)について 第3号議案 令和元年度 資金収支中間報告(案)について 第4号議案 新棟建設中止(案)について 第5号議案 諸規程の一部改正(案)について 第6号議案 令和元年度第2回評議員会の開催(案)について	全員出席
第5回	1月25日	第1号議案 足柄療護園給水設備整備工事(案)について	全員出席
第6回	3月13日	第1号議案 令和元年度資金収支3次補正予算(案)について 第2号議案 令和2年度事業計画(案)について 第3号議案 令和2年度資金収支予算(案)について 第4号議案 社会福祉法人監査の結果について 第5号議案 諸規程等の改正(案)について 第6号議案 令和2年度基盤整備小委員会の設置(案)について 第7号議案 令和元年度第3回評議員会の開催(案)について	全員出席

(2) 評議員会

第1回	6月14日	第1号議案 次期理事・監事選任(案)について 第2号議案 平成30年度決算報告(案)について	全員出席
第2回	11月8日	令和元年度 資金収支2次補正予算について 令和元年度 事業中間報告について 令和元年度 資金収支中間報告について 新棟建設中止について 諸規程の一部改正について	評議員 欠席1
第3回	3月27日	令和元年度資金収支3次補正予算について 令和2年度事業計画について 令和2年度資金収支予算について 社会福祉法人監査の結果について 諸規程等の改正について 令和2年度基盤整備小委員会の設置について	全員出席

(3) 基盤整備小委員会 (生沼理事・柴田理事・守屋理事・小澤評議員)

第1回	8月6日	プレアデスホーム(あまつぼホーム403)スプリンクラー設置工事 入札
第2回	2月14日	足柄療護園給水設備整備工事入札手順について
第3回	2月17日	プレアデスホーム(あまつぼホーム403)スプリンクラー設置工事引き渡し
第4回	3月13日	足柄療護園給水設備整備工事入札(開札)について
第5回	3月19日	足柄療護園給水設備整備工事見積り合わせについて

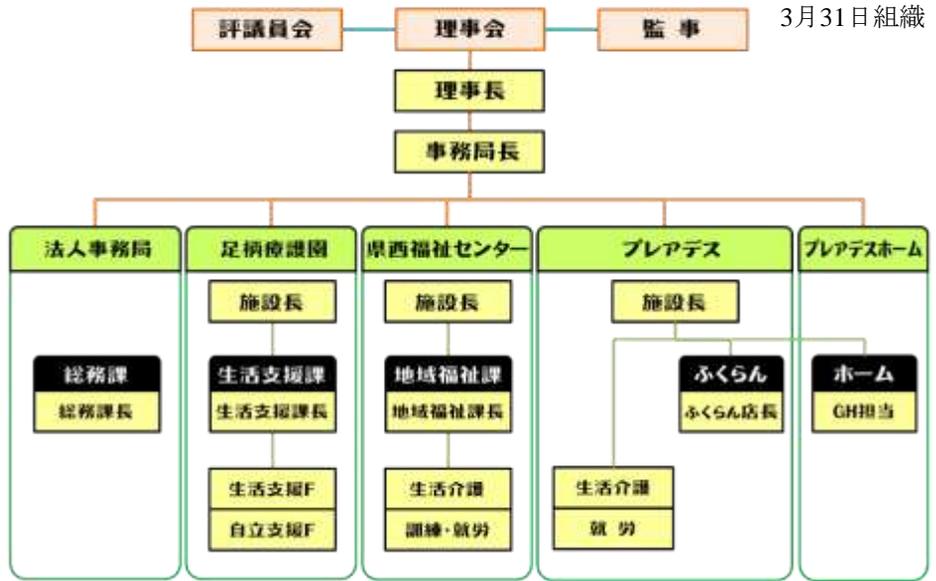
2. 主要行事

月	施設行事	法人・職員	地域・家族 他
4	施設外活動(花見)【足】【セ】【プ】 スポーツ大会【足】 / 避難訓練【プ】【ホ】	避難訓練【プ】【ホ】	下田組主催花見【ホ】
5	健康診断【足・ホ】 施設外活動(平塚公園/小田原漁港)【足】 チャレンジ遠足【プ】	健康診断 監事監査 理事会	家族会総会【足】 ボランティア食事会【足】
6	プレアデス祭 避難訓練【足&セ】【ホ】 カラオケ大会【足&セ】 施設外活動(新江ノ島水族館)【足】	評議員会/理事会 プレアデス祭 職員会議 避難訓練【足&セ】【ホ】	プレアデス祭 大井高校 利用者講演
7	スポーツ大会【足】 / グループ外出【プ】 カラオケ大会【プ】 施設外活動(カラオケ)【足】 七夕行事【足】【セ】【プ】	「ふくらん」6周年	各自治会夏祭り出店【ふ】 小田原養護学校夏祭【プ】
8	卓上ゲーム大会【足&セ】 流しそうめん【足】 家族交流BBQ【プ】 下田組合同BBQ【プ】	理事会 基盤整備小委員会 家族交流BBQ【プ】	各自治会夏祭り出店【ふ】 家族交流BBQ【プ】 下田組主催BBQ【プ】
9	避難訓練【足&セ】 施設外活動(小田原漁港)【足】 県ローリングハレー大会【足&セ】 カラオケ大会【足&セ】 秋のイベントBBQ【足】 一泊旅行(TDR)【プ】	職員会議 モンゴル技能実習正面接 避難訓練【足&セ】	足柄高校 利用者講演
10	秋まつり/作品コンテスト 健康診断【足】/スポーツ大会【足】 施設外活動(箱根ドライブ)【足】 施設外活動(ありんこ祭)【セ】 避難訓練【プ】	理事会 秋まつり 避難訓練【プ】【ホ】	秋まつり<家族会共催> 大井高校 実習受入 小田原短大 利用者講演 北里大学 利用者講演
11	インフルエンザ予防接種【足・ホ】 県文化ステージ発表【足】 県卓上競技大会【足&セ】 カラオケ大会【足&セ】/避難訓練【ホ】 焼き芋会【足】/ボーリング大会【プ】 施設外活動(小田原漁港/映画)【足】 利用者研修会【プ】	評議員会/評価面接 職員健康診断(夜勤者)	大井高校 実習受入 日本女子大学 利用者講演 南足柄市立足柄台中学校 講演
12	クリスマス会【足】【セ】【プ】 アールドヴィーヴルアートワーク【足】	職員会議 避難訓練【足&セ】	家族会・施設清掃(家族会) GH家族大掃除【ホ】 県西地区文化事業【プ】 南足柄小学校2年生見学【ふ】 東部療育センター利用者講演 中央医療健康大学校1年生【40】
1	成人を祝う会【足】 書初め【セ】 施設外活動(カラオケ)【足】	理事会	
2	節分行事【足】【セ】 スポーツ大会【足】 身障協文化作品展示会【足】 伊東一泊旅行【ホ】 県西地区知的施設伝達訓練【プ】【ホ】	基盤整備小委員会 法人指導監査 県西地区知的施設伝達訓練	高浜高校 利用者講演 ちいきふくし博【足&セ&プ】 県西地区知的施設伝達訓練
3	カラオケ大会【足&セ】 ひなまつりイベント【足】 自分発表会【プ】 夜間想定避難訓練【足】	理事会・評議員会 基盤整備小委員会 避難訓練【足】	家族会役員選出【足】

3. 組織体制

(1) 組織体制

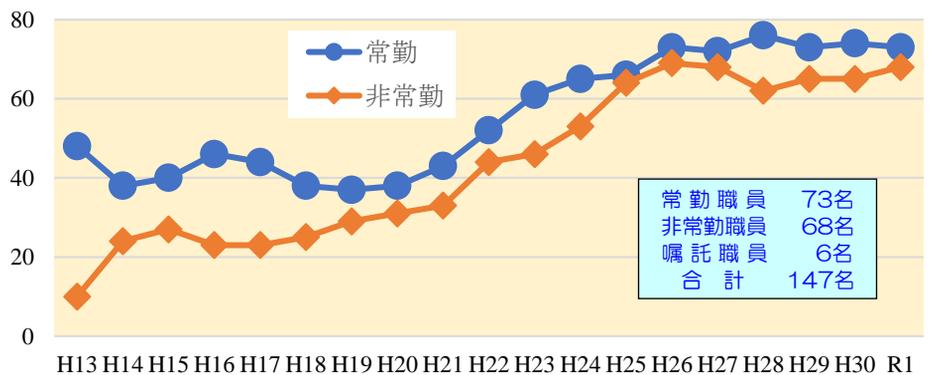
組織の変更は行わなかった。



(2) 職員数

年度末の職員総数は前年から2名増え147名である。常勤職員の退職者は7名。同8名の採用のうち、3名が人材紹介による。

常勤を見込んで採用したものの、定着に至らなかったケースが5件あった。



(3) 職員配置

3月31日現在の各事業の配置職員は、指定基準を満たしている。

職種	足柄療護園		県西福祉センター		プレアデス		プレアデスホーム	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1名		1名		1名		1名	
サビ管	2名		1名		1名		2名(兼務)	
医師		6名		1名(兼務)		1名(兼務)		
看護師	2名	11名	1名(兼務)			1名(兼務)		
生活支援員	28名	9名	10名	7名	19名(兼務)	12名	13名(兼務)	
指導員			1名		1名			
訓練担当	1名(兼務)	3名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)			
世話人							12名(兼務)	14名
その他	4名	7名		3名				

3月31日現在

4. 職員状況

(1) 労働条件の改定等

7月に1及び2等級の常勤職員及び非常勤職員の昇給を実施した。また、10月には最低賃金改定にかかわる対応を行った。また、10月より**特定処遇改善加算**を申請したことに伴い、12月の給与から、職員を3つのグループに分け福祉有資格者で経験のあるグループに対して、特別手当の増額、職務手当の増額、昇給を実施した。

(2) 職員研修

年度計画をもとに、階層別に施設内研修を実施した。職員体制が整わず、研修への参加が思うように募れなかった。計画していた、足柄ふれあいセミナー、新任職員サービス力向上ディズニー研修、感染予防研修は開催を見送ることとした。3月に計画していた人権研修は新型コロナウイルス感染予防対策により開催延期とした。



職員講師による研修

①施設内研修実施状況

職員研修	テーマ	講師	対象者	参加者
4月19日	オムツ研修	日本製紙クレシア(株)	新人	8
5月7日	口腔ケア研修	足柄歯科衛生士会 加藤明美氏	新人	15
6月20日	防災研修	株相日防災	全体	22
8月23日	高次脳機能障害の理解	猪川言語聴覚士	中堅	17
9月24日	障害者体験	猪川言語聴覚士	中堅	17
11月13日	感染症研修	小林リーダー、川西リーダー	全体	23
12月20日	救命救急	小田原消防	全体	23
延期	成年後見人制度	社会福祉士 和田明子氏	全体	--

②スキルアップ研修実施状況(業務時間扱い・自由参加型)

日程	テーマ	講師	参加者
7月25日	腰痛予防	大野理学療法士	17
10月31日	知的障害の基礎と関わり方	諏訪部心理士	9
1月29日	コミュニケーション研修	藤田支援員・丹羽支援員	23
2月13日	ストレス管理研修	諏訪部心理士	18

③施設外自己啓発(SDS)

自己啓発制度を活用し、コミュニケーション障害学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会や神奈川県言語聴覚士会の研修会への参加、また、国際福祉機器展の見学に対し、交通費等の支援を行った。

⑤施設外研修受講状況（15企画延べ23名参加）

内容	参加者	主催
関東甲信越地区身障協職員研究大会	山岸直広・奈良場純一	関東地区身障協
関東地区知的障害福祉職員研究大会	柴田・平田・大川由紀子・月村充男	関東地区知的協
法人ブランディング&広報PRセミナー	柴田和生	全国経営者協議会
外国人技能実習責任者講習会	山岸直広	株式会社ウェルネット
サービス管理責任者等研修 基礎研修	奈良場純一	神奈川県
相談支援従事者 初任者研修	宮崎健・府川晴紀・奈良場純一・五味希志子	神奈川県
強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	新井千草	神奈川県
強度行動障害支援者養成研修(実践研修)	川西貴久	神奈川県

※その他、神奈川県身体障害者療護施設協議会等の研修等へ8名が参加

(3) 会議・委員会

新たに権利擁護委員会を設置した。会議日程を見直し開催回数を減らし計画的に会議を開催した。各委員会の活動を通じ、**リーダーシップの発揮**をはじめとした、職員の能力開発と**組織運営への参加**をはかった。

名称	内容	開催数	メンバー
職員会議	施設運営及び職員に係る事項について提起し、職員間の意思疎通をはかる	2回	全職員
運営会議	施設運営及び職員に係る事項について検討し、組織の一体化を推進する	5回	理事長、柴田、田中、山岸、平田、行待、佐々木、大賀、根本
わくわく委員会 (日中活動)	クラブ活動や外出支援等、日中活動の企画・検討を行い、充実した日中活動を目指す	4回	◎岸、府川、西川(晃)、鈴木(匠)、神羽、(良知)
いきいき委員会 (生活向上)	利用者自らが自立した生活を実現するための能力を身に付けていく視点で検討する	3回	◎柘植、宮崎、山岸(里)、鈴木(眞)、(山口)
さくさく委員会 (業務改善)	業務の効率化を実現し、職員の負担を軽減し、より充実した利用者支援につなげる	4回	◎迫田、阿部(礼)、持丸、藤田、加藤、(山口、良知)
権利擁護委員会	成年後見制度利用状況の把握、身体拘束の把握、虐待が疑われるケースの検証等を行う。	3回	◎山岸、柴田、平田、石川、佐々木、山口、良知、増田
リスクマネジメント 委員会	利用者が生活を送る上での安全安心確保と事故の防止をはかる。各種マニュアルの整備。	4回	◎丹羽、石川、佐々木、山口、良知、増田、P松橋、(山岸、平田)
ボランティア 委員会	ボランティアの誘致、受入れ及び対応にかかわることについて検討する	4回	◎山岸(里)、神羽、加藤、奈良場、大川、土屋
研修委員会	職員の研修にかかわること、研修会の企画・開催について検討する	4回	◎森本、宮崎、持丸、迫田、白井、P古沢、大熊
衛生委員会	労働災害及び疾病の防止対策を行い、快適な作業環境の実現を促進する	12回	◎七海、田中、野村Dr.、森本、阿部(礼)、岩田、根本NS、(山岸)
広報委員会	広報誌『やまぶき』の編集・発行を行う。広報にかかわることについて検討する	3回	◎宮内、岩田、鈴木(眞)、猪川、P寺林、大熊
短期入所受入 検討会議	短期入所利用者情報の共有と受入にかかわる業務等の調整を行う	11回	◎増田、山岸(直)、石川、山口、五味、NS、(佐々木)
食のあり方 検討委員会	ソフト食の提供にかかわる課題の整理や食事観察の必要な方の支援を行う	4回	◎猪川、石川、山口、良知、赤池、金子、NS、(山岸、平田、佐々木)

(5) 労働衛生

5月30日に職員110名に対し健康診断を実施し、所見のある職員が**75名**おり、医師診断をすすめた。夜勤従事者は11月に嘱託医師による健康診断を実施した。また、健康保険加入職員42名に対してストレスチェックを実施した。衛生委員会において、施設内の巡回チェックシートにより職員労働環境の定期確認を実施した。

(6) 委員会活動報告

委員会名	委員長	実施報告
わくわく (日中活動) 委員会	岸 	季節のイベントとして七夕会やクリスマス会、節分会を企画開催した。また、食のイベントの流しそうめんや焼き芋会、ひな祭りに合わせ春のイベントとしてホットケーキ作りを行った。さらに、利用者の声を活かし、9月に「秋のイベント」としてバーベキューを開催し、普段参加しない方を参加に導くことができた。昨年に引き続き「成人を祝う会」を開催し、新成人をみんなでお祝いした。
いきいき (生活向上) 委員会	柘植 	「ふくらん」商品の販売品目について検討し、月替わりのシュークリームを商品リストに加えたことで、購入する利用者が増えた。ぶらりランチの外出先を「はま寿司」1箇所から3か所に増やしたことで新たに利用する方が増えた。「ぶらりランチ」は3回実施し、延べ4名(実利用4名)がでかけた。3月の利用希望はコロナウイルスの影響で中止となった。
さくさく (業務改善) 委員会	迫田 	職員の充足が遅れる中で、各フロアの食堂の清掃業務について清掃スタッフに任せることで、介護職員の負担の軽減ができた。夜勤職員の早朝業務の軽減を目的に、早番職員の出勤時間の調整を試行したところ、効果が得られたので実現に向けた手続きを行うこととした。コールした時にランプ点灯が見えるようにして効率的な動線を実現した。
リスク マネジメント 委員会	丹羽 	権利擁護委員会がスタートしたことで、リスクマネジメント報告やヒヤットと共有書の内容について共有することと対策の検討を行うことができた。ヒヤットと共有書の提出数が減少していたことから、各部署への周知を行った。利用者の緊急連絡先データの見直しを行った。各事業所のマニュアルの再整備については軽微な見直しにとどまった。
権利擁護 委員会	山岸 	成年後見制度利用状況の把握と利用促進に向けた支援を行った結果、足柄療護園で7名増加の23名が制度利用となった。身体拘束の把握と廃止に向けた検討を行い3名を解除することができたが、項目数としては減らすことはできなかった。12月に職員人権チェックを実施し、結果について職員に周知した。
ボランティア 委員会	山岸 	ボランティア活動数、延べ1500名を目指し1187名の誘致を行った。近隣の高校・大学・専門学校などへ、電話連絡やポスターの発送を定期的に行ってきたことにより、学校との連絡調整の基礎を作ることができた。プレアデスでは目標300に対し176名であった。5月に親睦を兼ねた食事会を立食形式で開催し50名が参加した。
研修委員会	森本 	事前に職員へ研修内容に関するアンケートを実施し、受講の希望に合わせた研修内容を検討し開催することができた。専門分野については外部講師を依頼し開催する一方で、職員が講師役を務めて開催する取り組みも行い、講師職員のスキルアップにつなげた。3月に予定していた権利擁護研修は感染予防のため延期した。
衛生委員会	七海 	年度内2回の定期巡回を実施し、職場環境改善に向け修繕が必要なについて修理依頼をおこなった。また、労働環境の改善を目的に、職員専用の救急箱の設置や休憩室の活用について検討をおこなった。各部署の職場環境状況を把握するためのアンケートを実施し、内容の検証等については次年度へ引き継いだ。
広報委員会	宮内 	『やまぶき』の発行を年4回から年3回に変更した。内容の検討を重点的に行い、年間掲載記事一覧をもとに記事を作成した。特集記事として各事業所の施設や活動を記事や写真で掲載し豊かな表現に心がけ、利用者・ご家族、関係機関等へ約650部を印刷し配布した。恒例の写真販売も継続して行った。

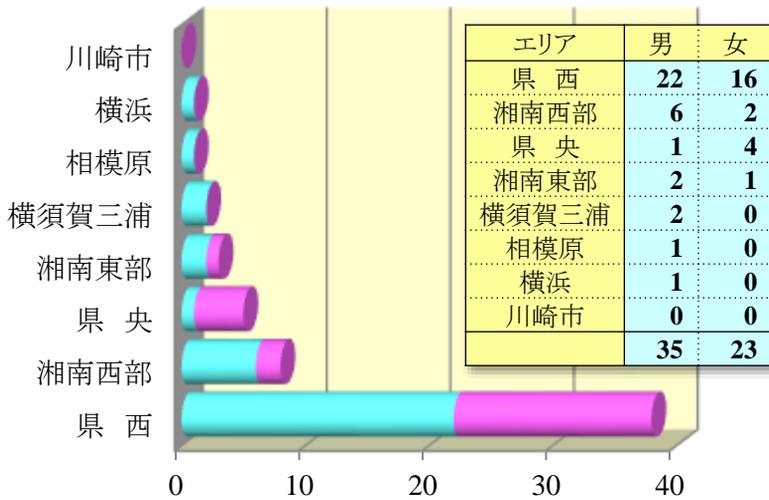
5. 足柄療護園の状況

(1) 施設入所支援

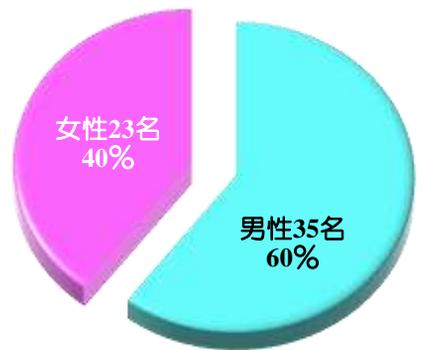
満床でスタートしたが、医療ケアが必要となった2名の入院が長期に及ぶこととなり退所され、1名が認知症の進行のため高齢者施設へ移行され、合計3名の方が退所された。新たに1名が在宅より入所され、3月末時点で58名となっている。入所期間が長期となり、年齢の上昇等により病気を併発される方が多くなった。

① 利用者の状況 (年度末現在;入所者数58名)

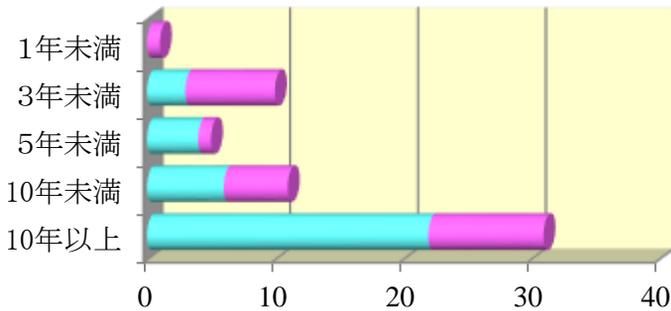
A.地域別入所者数:県西地区が38名(65%)を占める。



男性が35名(60%)。

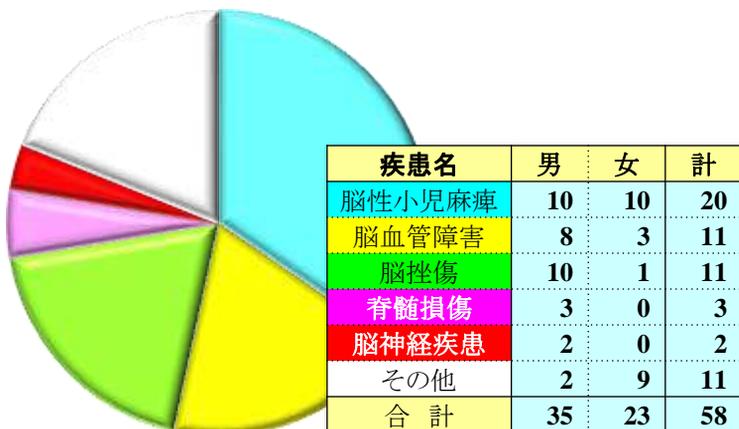


B.在所期間:10年を超えた方は若干減少し31名で53%。



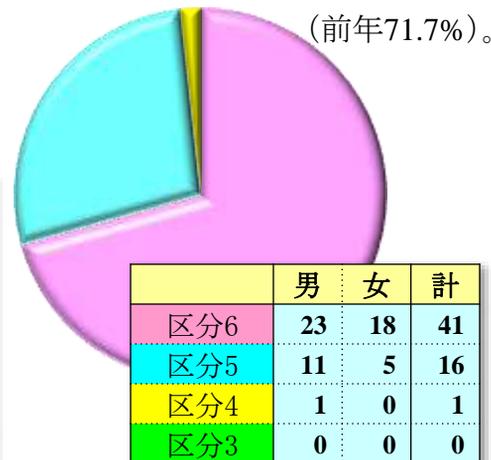
	男	女	計
1年未満	0	1	1
3年未満	3	7	10
5年未満	4	1	5
10年未満	6	5	11
10年以上	22	9	31

C.疾患別原因:脳性マヒの方が34%を占める。

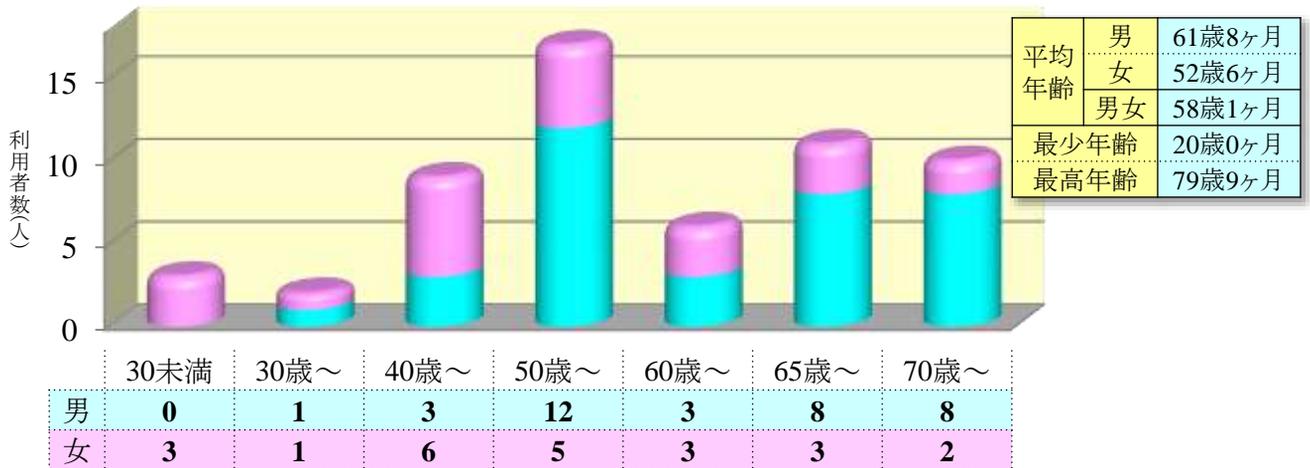


D.障害支援区分:区分6 が70.6%

(前年71.7%)。



E.年齢別:平均年齢は58歳。70歳以上は10名。

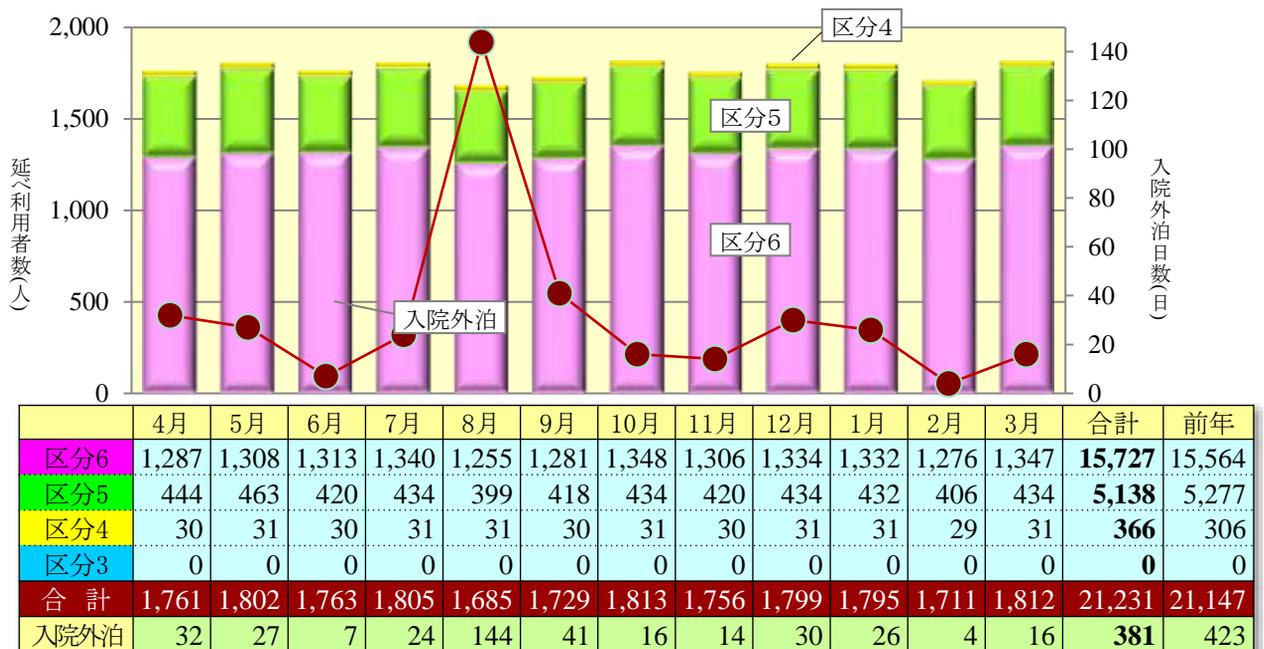


②個別支援

個別支援計画における会議の内容を、新たに導入したパソコンシステムの「シェアポイント」を活用し、修正を行いながら簡潔にまとまるように対応し、効率の良い会議運営を行った。個別支援計画として担当支援員が中心となって、利用者講演に向けた取り組みや居室の模様替えをはじめとしてその人らしい生活ができるように支援を行うことができた。

③利用状況

3名の退所に伴い、職員の体制や支援量等を考慮しつつ新たな入所者選考を行ったため、入所までの空床期間が発生した。しかし、夏場に風邪症状で複数の方が入院したものの、年間を通して体調管理に留意して早期対応を行ったことで、前年度に比べ短い入院期間となったため年間の利用日数は増加することができた。



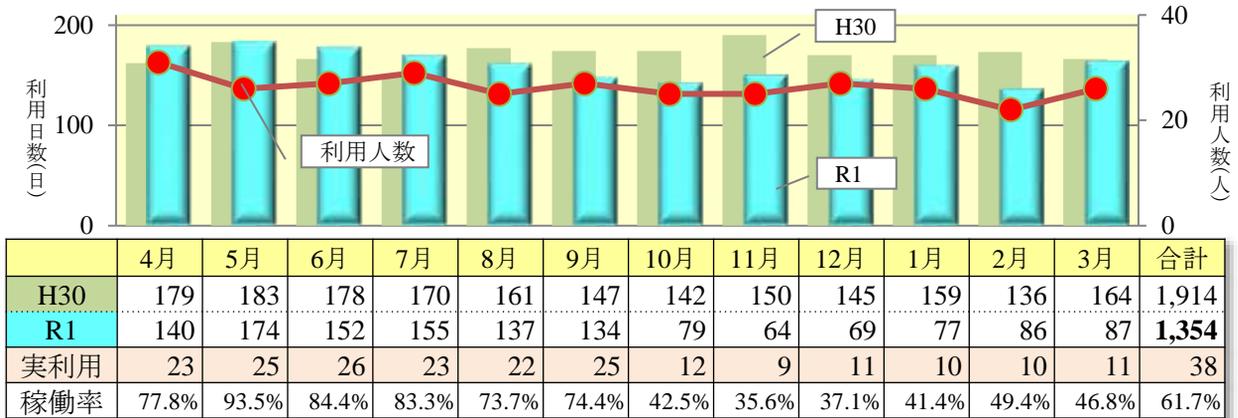
(2) 短期入所の状況 定員6名

足柄療護園入所職員の体制が整わず、10月1日から3月31日までの期間について「あんしんネット」利用者以外の利用制限をおこなった。登録者44名(前年54名)に対し、実利用38名(前年42名)年間延べ1354日(前年1914日)のサービス提供を行い、平均ベッド稼働率は61.7%(前年87.4%)であった。

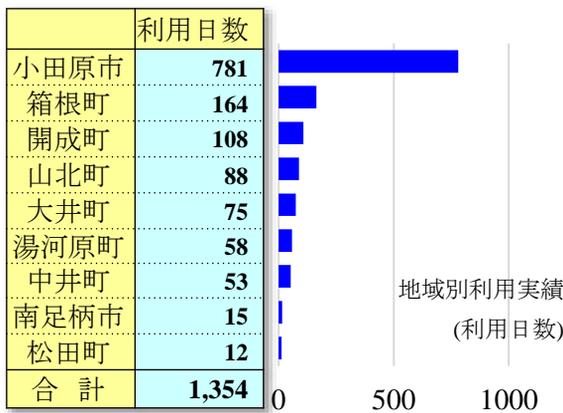
「短期入所受け入れ検討会議」を毎月開催し、利用者の情報共有を行なった。

①利用者の状況(3.31現在)

A. 利用実績: ベッド稼働率は61.7%(前年87.4%)で、延べ利用日数は1,354日であった。

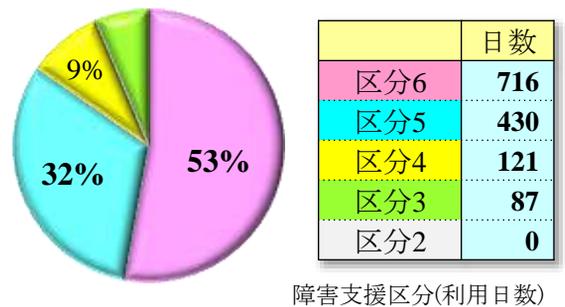


B. 域別利用状況: 小田原市が約6割を占める。



C. 障害支援区分別

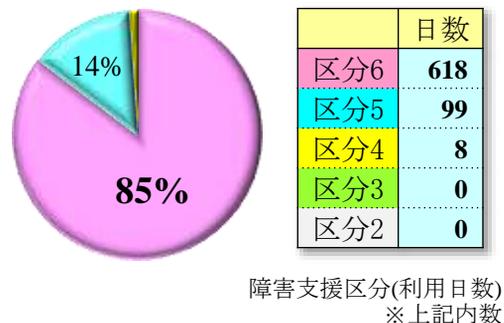
区分5と6で約85%を占める
平均障害支援区分は5.31
(前年5.29)



②地域拠点事業所配置事業の状況

地域拠点事業所配置事業「あんしんネット」の補助事業は10年目となり、26名(前年25名)の登録、実利用15名の方に対し延べ158名725日(前年170名633日)のサービス提供を行った。

また、県からの受託事業である「地域ネットワーク強化事業」において、圏域の関係機関との会議や研修機会を通じ連携強化をはかった。また、3回の公開研修を開催した。



障害支援区分(利用日数)
※上記内数

(3) 活動支援の状況

① クラブ活動等

11のクラブ活動等を延べ565名のボランティアの協力を得て開催し、175回(前年178回)、延べ2,777名(前年3,080名)の参加があった。パステルアートや手づくり教室などの創作的活動は人気が高く、材料費が有料でも参加者が多かった。

夏場の風邪症状の蔓延時には活動を休止し、2月後半からの新型コロナウイルスの感染拡大に伴ってはボランティアの受入れを中止して活動を行った。

カラオケ大会や卓上大会、スポーツ大会、作品コンテストの開催を通じ、通所利用者と入所者との交流を深める機会を作るとともに、日常の活動への意欲的な参加につなげた。

クラブ名	回数	参加	平均
スポーツクラブ	473	16	29.6
創作クラブ	142	5	28.4
音楽同好会	71	3	23.7
華道クラブ	111	5	22.2
卓上クラブ	265	12	22.1
カラオケクラブ	882	50	17.6
ローリングハレー	81	8	10.1
陶芸クラブ	48	5	9.6
パソコン	286	33	8.7
カーレット	132	38	3.5
園芸	0	0	0
小計	2491	175	17.3
手づくり	180	8	22.5
パステル	71	4	17.8
ネイルアート	35	2	17.5
合計	286	14	17.3

カラオケ大会	
6月12日	参加12名/観客28名
9月4日	参加13名/観客27名
11月21日	参加11名/観客23名
3月4日	参加12名/観客33名
卓上ゲーム大会	
8月20日	参加16名 (体調不良が多く縮小開催)
スポーツ大会	
4月25日	ボーリング 参加36名
7月18日	ゴロ卓球 参加38名
10月2日	運動会 参加37名
2月27日	ボーリング 参加41名
作品コンテスト	
10月16日	応募数174作品
～20日	202名の投票により選考



各大会実績

クラブ活動等の実績

② イベント・余暇活動 (アクティビティ)

法人全体で取り組む「秋まつり」は、10月第3日曜日に開催し、晴天に恵まれたものの、例年に比べ参加者数は少なく550名ほどの方々で賑わい、地域との交流を深める機会となった。

季節ごとのイベントは、わくわく委員会を中心に食のあり方検討会も協力し企画し、8企画を開催し、参加者は369名であった。



成人を祝う会



ひなまつり企画
ホットケーキ

月	イベント	参加数
7月	七夕会 (ハワイアン演奏&ところてん)	42
8月	流しそうめん	44
9月	秋のイベント [バーベキュー]	56
11月	焼き芋会	54
12月	クリスマス会 (ハンドベル演奏)	48
1月	成人を祝う会 (ハワイアン演奏)	41
2月	節分会 (子供ピアノ演奏)	38
3月	ひなまつり [ホットケーキ]	46

③ 買物外出・施設外活動

長時間の買物外出の実施や施設外活動を実施した。基本的に一対一の支援が必要であるが、南足柄市社協ボランティアやご家族、延べ20名の協力を得て実施した。小グループに分かれての外出で年間50ルート(前年60)で99名(前年110名)の方が出かけた。

外出先	回数	人数	外出先	回数	人数
小田原漁港	3	10	すたみな太郎[ランチ]	2	3
箱根ドライブ(海賊船)	1	4	崑左衛門[ランチ]	2	5
平塚総合公園	1	3	ビックボーイ[ランチ]	1	2
ブリアデス祭	1	3	買物外出		
新江ノ島水族館	1	3	シティーモール	12回/31名	
ボーリング[コロナワールド]	1	2	イトーヨーカ堂	4回/7名	
自然見学(花見)	1	2	ららぽーと平塚	2回/5名	
映画[コロナワールド]	1	1	ダイナシティ	4回/9名	



カラオケボックス外出

※3月は新型コロナウイルス感染防止対策で外出中止とした。

④ 施設外大会・発表会への参加

例年通り、神奈川県身体障害者施設協議会主催の県大会等に参加した。

9月28日	第29回 神奈川県ローリングバレーボール大会	入所 7名 通所 7名	入所: Bブロック入賞なし 通所: Bブロック優勝
11月16日	第25回 身障施設 文化ステージ発表会	入所 6名 通所 0名	タイトル「五輪☆おもてなし チームARめざせ! 世界一!」 歌と演奏
11月30日	第52回 身障施設対抗卓上競技大会	入所 3名 通所 5名	連珠3位入賞
2月11日	第24回 身障施設 利用者作品展示会	----	63作品

⑤ “ぶらり外出” “ぶらりランチ”

人気の企画である“ぶらりランチ”について、新たな飲食店の開拓を行った。実施に当たっては、南足柄市社協の有償支援「えぷろん」の協力を得て、今年度は3回開催し、実利用4名延べ4名が「はま寿司」や「グラッチェ」に出かけた。3月以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。

⑥ 飲酒・喫煙

毎週、金曜日の夕食後に飲酒希望者を対象に喫茶コーナーにて飲酒サービスを実施している。9名(前年10名)の飲酒希望のうち定期的に飲酒されている方は5名である。

利用者の喫煙は喫煙所にて可能で、受動喫煙防止条例に準拠した対応となっている。足柄療護園居住者で喫煙者は1名。



毎週金曜日の17:30から
飲酒サービス

6. 県西福祉センター(生活介護・自立訓練・就労継続・相談)の状況

年間利用人数10,000名を目標に運営したものの、足柄療護園に職員が応援に入る体制を組んだため8月及び9月は土曜日営業を一部中止した。下期は短期入所利用制限の影響から利用数が落ち込んだ。重ねて3月は新型コロナウイルス感染拡大から利用を自粛する方もおり、前年を4.0%下回り**8,602名**(前年8,964名)、1日平均は**28.5名**(前年度29.1名)であった。登録者数は78名で前年の91名を大きく下回った。

【生活介護事業】

❖延べ利用人数は2.5%減の**4,028名**(前年度4,133名)となり、1日平均**13.3名**(前年度13.4名)であった。入退所状況は、新規利用者8名、退所者6名であった。

【機能訓練事業】

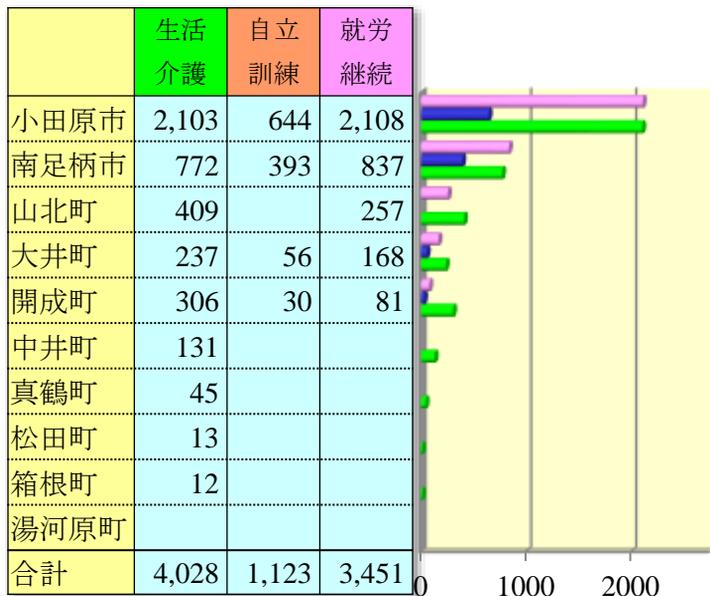
❖延べ利用人数は36.9%増の**1,123名**(前年度820名)となり、1日平均**3.7名**(前年度2.7名)であった。入退所状況は、新規利用者4名、退所者6名であった。

【就労継続支援B型事業】

❖延べ利用人数は13.9%減の**3,451名**(前年度4,011名)となり、1日平均**11.4名**(前年度13.0名)であった。入退所状況は、新規利用者4名、退所者7名であった。

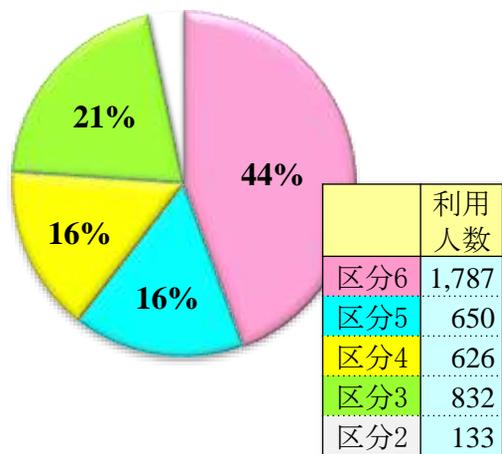
(1) 利用者の状況(3.31現在) 定員(生活介護30名/自立訓練6名/就労継続15名)

①地域別利用者延べ数(小田原市56%、南足柄市23%)

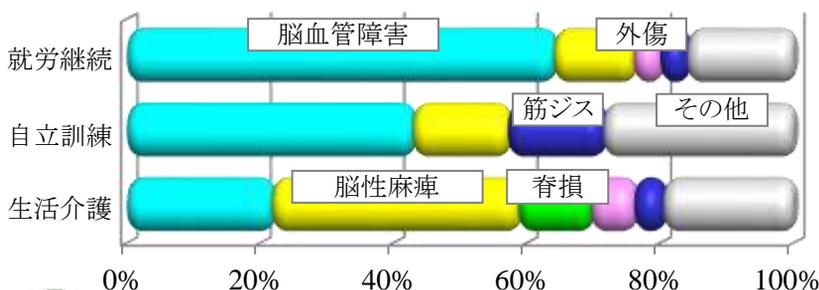


②生活介護利用者障害支援区分

平均障害支援区分 **4.8**(前年4.8)



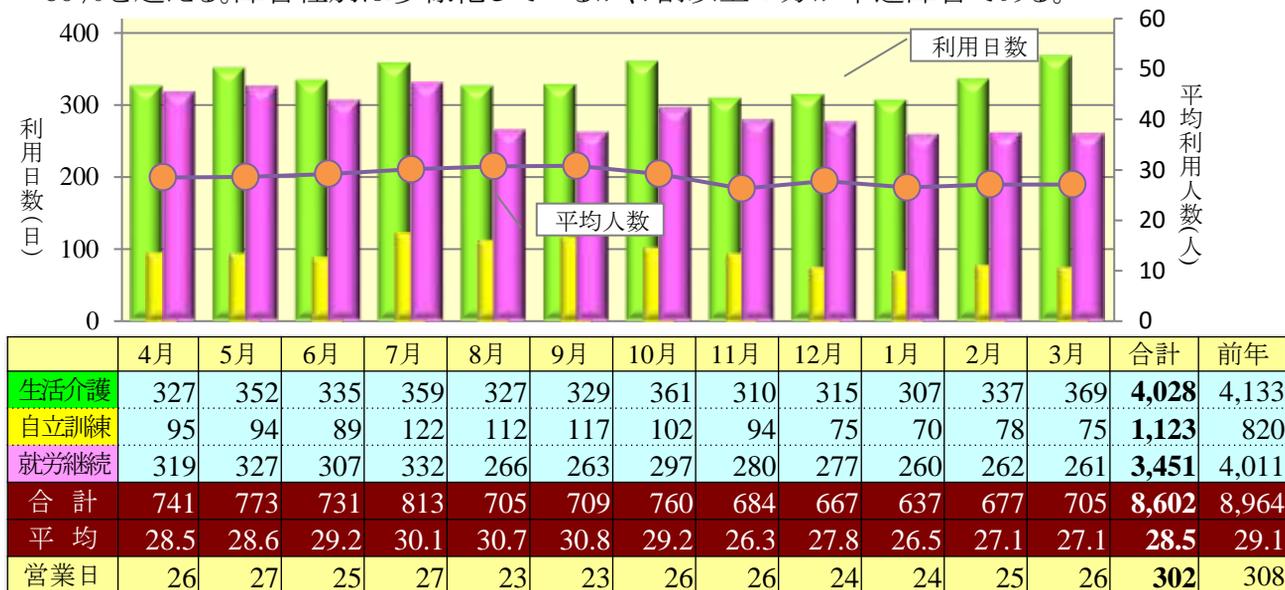
③疾患別原因:障害の原因が多岐にわたっている



	生活介護	自立訓練	就労継続
脳血管障害	10	3	16
脳性麻痺	17	1	3
脊髄損傷	5		
頭部外傷	3		1
筋ジス	2	1	1
その他	9	2	4
合計	46	7	25

(2) 利用状況

年間利用人数は8602人で、特に就労支援B型事業の減少が大きかった。行政別では小田原市の方が各事業共に多く、全体では56%を占め、特に就労支援B型事業ではその割合が60%を超える。障害種別は多様化しているが、7割以上の方が中途障害である。



(3) 利用者工賃の支給状況

就労B型の登録者は**25名**（前年末33名）となった。作業工賃の見直しや単価の高いものの受注もあり、平均工賃は前年度より1,578円高い**月平均 5,725円**（前年4,147円）となった。また、時給換算においても前年の56円増の**191円**（前年135円）となった。

(4) 日中活動の状況

生活介護では毎週の活動や毎月のイベントを計画的に行った。施設外活動として地球博物館など3回実施した。毎月開催の食のイベントでは、いつもとは違う食事提供と創作活動やボッチャ等の活動、ドッグセラピーなどを行い、3事業の利用者同士の交流をはかった。

活動名	回数	参加	平均
手話サークル	51	417	8.2
卓球&カラオケ	41	114	2.8
絵本タイム	4	20	5.0

活動実績

(5) 相談支援事業

新規利用相談は、入浴と機能訓練の相談が多い。相談は相談支援事業所からが最も多く、次いで病院からの問い合わせが多い。地域別では小田原市からの相談が21件で全体の約4割を占める。サービス利用計画作成は、全体で58名、内訳は足柄療護園入所者43名、在宅サービス利用者10名である。

生活介護相談	5件
訓練相談	7件
就労継続相談	4件
入所相談	20件
短期入所相談	9件

食のイベント開催状況(参加者数)

7. プレアデス(生活介護・就労継続・日中一時・相談)の状況

生活介護及び就労B型の年間利用者数は、前年を若干上回って**13,103名**(前年13,042名)、1日平均**36.0名**(前年度35.7名)の実績となった。登録者は64名でスタートし年度末では**63名**(生活介護24名、就労B39)となった。生活介護利用者の障害支援区分は平均で**5.31**(前年5.26)であった。9月に生活介護の利用者を中心に風邪症状が発生し、生活介護のみ3日間事業所を休業とした。また、10月には大型台風の影響で両事業所とも1日休業した。利用者の通所方法について、訓練等を実施し9名が公共交通機関での通所を行うことができた。

【生活介護事業】

❖登録者は1名が加わり24名となった。軽作業班に対して従事環境を行うことで、環境要因に左右されずに作業ができる方を最重度の方と同じスペースでの作業提供を試みた結果、最重度の方と一緒に問題なく作業ができた事により職員配置に柔軟性が持てるようになった。また、最重度の方も軽作業の手伝いをする事で社会参加促進につながった。

【就労継続支援B型事業】

❖精神障害の方2名が環境になじめず退所され登録者は39名となった。受託作業について見直しを行い、共同受注窓口を介しスティックのりの作業受注を開始した。すべての利用者が作業に従事できる事と、決まった間隔で納入出荷ができるため、職員の納品作業の軽減につながった。能力に応じ検品作業についても利用者が行い、職員と同じ仕事ができる事で仕事に対するモチベーションUPと工賃向上に結び付いた。

【日中一時事業】

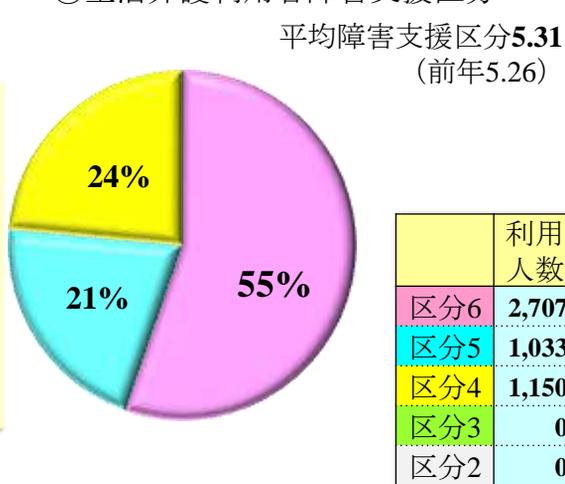
❖今年度もサービス提供時間を16時から17時までの1時間としつつ、緊急レスパイトに対しては個々に対応したことで、時短営業についての問題なく営業することができた。14名(1名増)の登録者に対して、昨年度を上回る2274日のサービス提供ができた。新たに生活介護を利用する方に体験的に利用していただき慣れていただく試みをおこなった。

(1) 利用者の状況

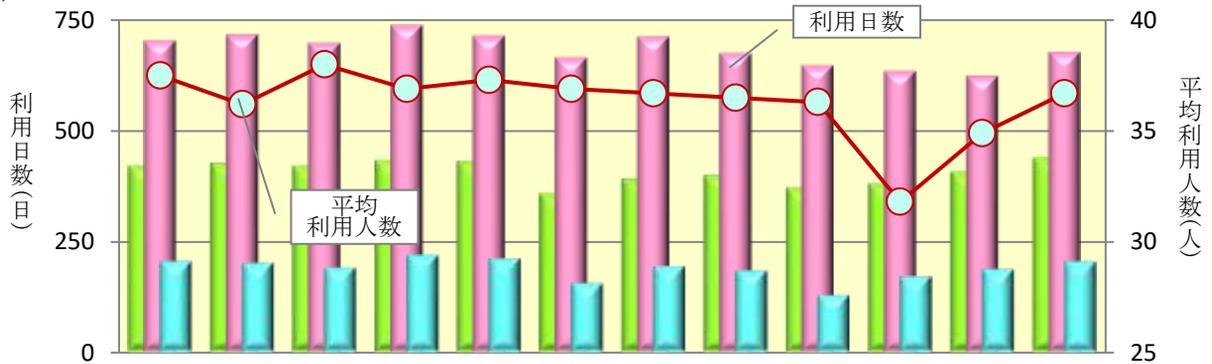
①地域別延べ利用者数



②生活介護利用者障害支援区分



(2) 利用状況



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年
生活介護	421	428	421	434	432	359	393	401	372	381	408	440	4,890	4,875
就労継続	704	718	698	739	715	666	713	675	648	635	624	678	8,213	8,167
合計	1,125	1,122	1,139	1,144	1,157	1,053	1,138	1,094	1,016	891	1,012	1,138	13,103	13,042
平均	37.5	36.2	38.0	36.9	37.3	36.9	36.7	36.5	36.3	31.8	34.9	36.7	36.0	35.7
営業日	30	31	30	31	31	27/30	31	30	28	28	29	31	362/5	365
日中一時	207	203	192	221	213	157	196	186	130	173	189	207	2,274	2,235

(3) 利用者工賃の支給状況

一般就労に向けての支援と、工賃額アップを目標に支援を行い、プレアデス福泉(就労B型)の平均工賃は全体で14,861円と前年比より**1,065円**向上した。軽作業グループの平均は10,449円、ふくらんでは24,075円であった。

	R1	H30
プレアデス全体	14,861	13,796
ふくらん以外	10,449	8,792
ふくらん	24,075	23,449

平均工賃実績

(4) 相談支援事業

施設利用について**14件**(前年26件)の相談があり、2名が利用につながった。生活介護では養護学校経由の相談が中心で、多くが重心児の進路相談であった。就労BとGHは合わせて7件の相談事業所経由の相談があったが、精神障害と発達障害の方が中心で、4名の方が見学に来られたものの本人の意向もあり利用には結びつかなかった。

生活介護相談	7件
就労継続相談	4件
入所・GH相談	3件
その他	0件

(5) 日中活動

生活介護では「作って楽しい・見て楽しい・食べておいしい・利用者の記憶映え」をコンセプトに利用者が主体となり誕生会を実施した。就労Bでは元利用者に講師を依頼し「就職」をテーマに利用者主体の研修を開催し、3月には自分発表会を開催した。



西湘地区文化事業での発表

(6) 施設外活動

夕日の滝で開催したバーベキューにはご家族も含め総数99名が参加した。また、恒例のディズニーへの一泊旅行へは58名(利用者41名)が出かけた。就労Bでは、最乗寺へのチャレンジ遠足に29名が参加した。生活介護ではボーリング大会を開催した。県西地区文化事業など地域福祉事業所で取り組む行事へも参加した。県のスポーツ大会への参加(延べ46名)にも支援を行った。



チャレンジ遠足(最乗寺)

(7) 地域交流

恒例のプレアデス祭は晴天に恵まれ、盛大に開催することができた。自治会からはふくらんの出張販売に例年以上にお声掛けいただいたものの、残念ながら夏場の悪天候により中止が相次いだ。毎年参加している関本自治会文化祭への参加は見送ることとなった。

ふくらんでは南足柄小学校2年生29名の見学や足柄台中学校や足柄高校の職場体験を受入れた。



プレアデス祭は晴天に恵まれ
400名近い方々にぎわった!

8. プレアデスホーム (共同生活援助定員36名)

上半期2名が入居したものの入院等で2名が退去し、定員36名に対し前年度同様31名となった。災害対策として、これまでの火災訓練に加え、地震訓練も実施した。11月には日帰り旅行を初めて実施した。2月以降は、新型コロナウイルスの影響もあり、すべての活動を自粛した。施設整備補助金を活用し、重度な利用者が多く生活する「あまつぼホーム」にスプリンクラーを設置した。

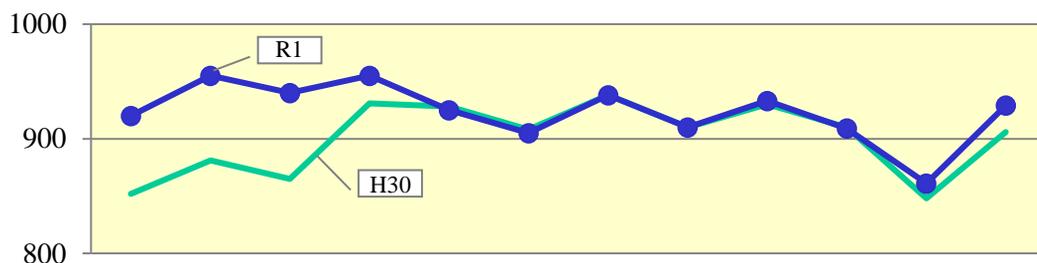
A.入所者の性別及び人数



B.障害支援区分

区分	あまつぼ			いずみ			やまさき			計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
6	1	2	3							3
5				1		1	3	1	4	5
4		1	1				3	2	5	6
3				1		1	7		7	8
2	1		1				7	1	8	9
1										

C.月別利用人数実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用日数	920	955	940	955	925	905	938	910	933	909	861	929	11,080
入院日数	36	31	30	47	62	31	0	0	0	15	20	12	284
外泊日数	26	37	20	21	36	25	23	20	28	37	18	20	311
前年	852	881	865	931	928	908	938	910	930	910	848	906	10,807

2月15日から1泊2日で伊東市サンハトヤホテルで、**県西地区グループホーム交流会**が開催され、11名が参加し、他法人のグループホーム利用者との交流をはかった。初のグループホーム旅行の企画として、9月5日から1泊2日でディズニーランドへ行き、利用者同士の交流を深めることができた。8月のバーベキューには利用者25名ご家族7名が参加し、12月の年末大掃除には、利用者24名ご家族や後見人など13名に参加協力が得られた。

9.ふくらん販売状況

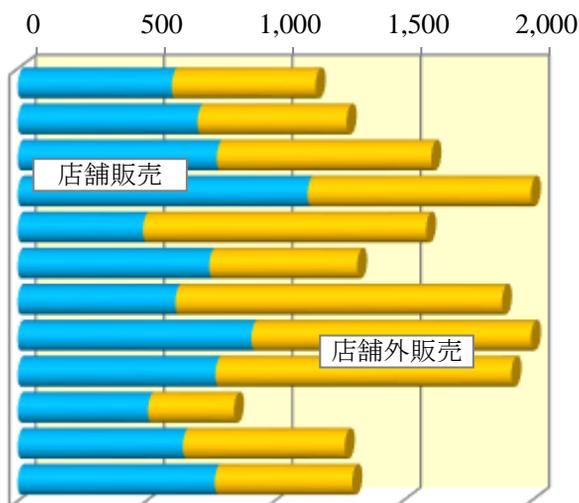
(1) 販売状況

年間の販売実績は前年(1704万円)を8.6%上回り1852万円であった。店舗では季節毎のフェア、6周年セール等の企画を行い、タウンニュースの毎月の広告やSNSなどにより認知度向上をはかった。新商品として、ほうじ茶シュー、塩レモンクッキーシューなどを発売した。

小田原ラスカの出張販売が3回あり売上アップにつながった。地域の小中学校、高校、小田原短期大学などでの定期販売や地域イベントでの出張販売を通じ、いっそう地域とのつながりを深めることができた。登録利用者数は昨年同様15名、1日平均利用者数は**7.6名**(前年8.0名)、ふくらん利用者の年間平均工賃は**24,075円**(前年23,449円)であった。

◆月別販売実績(単位:千円)

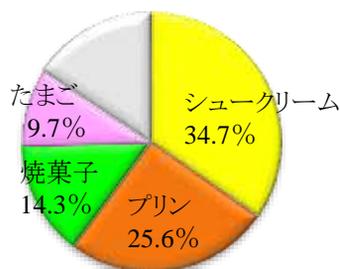
	店舗	店舗外			売上 合計	前年 売上
		小計	外販	受注等		
4月	601	560	281	279	1,161	935
5月	701	581	250	331	1,282	1,420
6月	776	836	401	435	1,612	1,475
7月	1,130	1,114	824	290	2,244	1,618
8月	489	1,103	848	255	1,592	1,524
9月	747	576	142	434	1,322	1,363
10月	615	1,272	992	280	1,887	1,640
11月	911	1,160	743	417	2,071	2,365
12月	771	1,153	867	285	1,924	1,507
1月	508	335	136	199	843	669
2月	644	631	439	192	1,276	1,056
3月	772	536	417	119	1,308	1,472
合計	8,665	9,856	6,340	3,516	18,521	17,043



◆店舗部門別販売実績(レジ集計値)(単位:千円)

部門	売上	構成比	販売数	前年売上
シュー	2,871	34.7%	15,212	2,810
プリン	2,122	25.6%	10,488	2,012
焼菓子	1,189	14.3%	4,532	948
たまご	801	9.7%	3,507	799
その他	1,302	15.7%	2,697	1,297

※レジ集計値なので、現金売上金額とは若干異なる



(2) 取り組み

足柄台中学校2年生2名、足柄高校2年生1名の**職場体験**を受入れた。また、12月には南足柄小学校2年生29名の見学が行われた。

新たなレジの支払い方法として、電子マネー決済の導入をスタートし、5%還元制度の効果もあり、年間で61.8万円の利用があった。



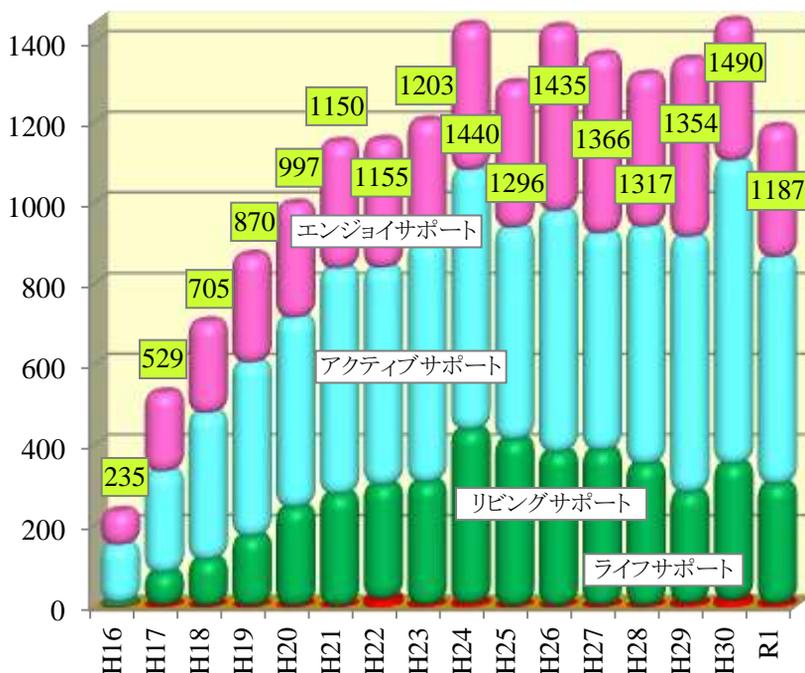
南足柄小学校2年生見学

10. ボランティア活動の状況

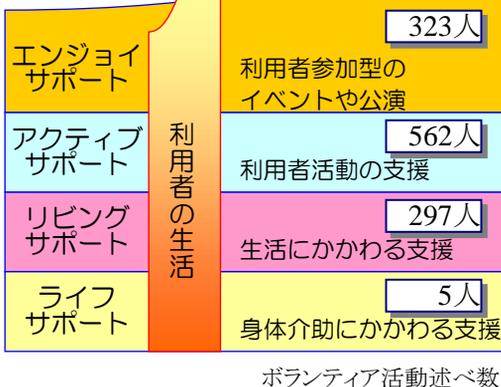
(1) ボランティア実績

年間ボランティア数の目標を1,500名とし取り組んだものの、新型コロナウイルス感染拡大から2月26日からボランティアの受入れを中止したことが影響して、**1,187名**（前年1,490名）の活動誘致にとどまった。学校に対して電話やチラシ配布などで誘致活動を行い、学生の活動は**131名**（前年109名）に達した。クラブ活動については、地元のいずみ地域福祉会の献身的な取り組みで**334名**のボランティア活動を得て、日中活動の充実がはかられた。

プレアデスにおいては300名の目標を掲げ、**177名**（前年216名）を受入れた。



利用者の生活面から、ボランティアの活動を四つの階層に区分し、それぞれの階層ごとにボランティアの活動を誘致している。



(2) ボランティアイベント開催状況 37回1,060名（前年44回1,335名）が参加・鑑賞した。

催事	参加	様子	催事	参加	様子	催事	参加	様子
車いすダンス 矢車草の会	181名 /5回		ピアノ&ドラム ピクルス	128名 /5回		ハワイアン カマカハワイアンズ	83名 /2回	
小田原 奇術クラブ	79名 /2回		子供ピアノ リズムカ	72名 /2回		絵本タイム とんちゃん	68名 /5回	
おはなし 青い鳥	60名 /3回		大正琴 華音	57名 /2回		アニマル セラピー	55名 /3回	

(3) ボランティア食事会

日ごろのボランティア活動に感謝し、5月31日にボランティアの方々をお招きし、職員との懇親を兼ね食事会を開催した。**50名**の方が参加した。



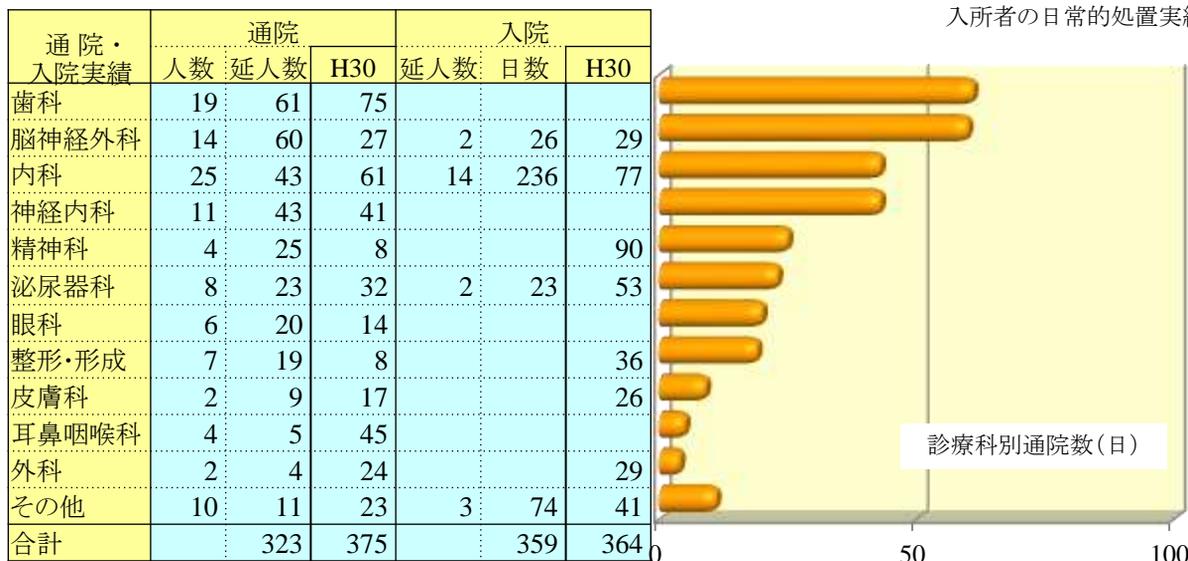
11. 健康管理の状況

(1) メディカル

夏頃に風邪症状が蔓延し、肺炎の診断で入院が続出したことなどがあり入院日数は延べ21名359日(前年364日)となった。状態が安定し3か月から半年ごとの定期通院となるなど通院数は年間323件(前年375件)と減少した。

	対象者	件数
膀胱洗浄	2	158
摘便	6	215
義眼洗浄	1	105
褥瘡	3	52
経管栄養	3	1,091
バルーン交換等	3	36
その他	吸引 / 皮膚科処置 / 胃瘻・膀胱瘻処置 / 眼科処置 / 採血 / 気切部処置他	

入所者の日常的処置実績



※その他の入院は、すべて救急外来。

(2) リハビリ (訓練等サービス)

リハビリテーション実施計画書に基づき、個別リハビリテーションを行い、身体・認知機能の維持・向上をはかった。また、少人数のグループ訓練を併用し、応用的な能力の獲得を支援した。チームアプローチを徹底し、利用者の高齢化・障害重度化に対応した。

機能訓練等

訓練の必要性に応じ、理学療法士を中心として機能維持訓練を実施した。

個別に自主訓練の方法を提案し、身体機能への自己認識の向上を促した。また、臥位や座位ポジショニングに関し、調整・提案を行った。

言語訓練

必要に応じ摂食嚥下機能の評価を行い、訓練や食形態の調整等を行った。

高次脳機能・コミュニケーション能力の向上など目的別小グループ訓練を継続した。

失語症に特化した小グループの訓練を開始した。

	利用人数	延べ数		事業別		
			H30	入所	県西	プレ
言語訓練	54	1,353	1,484	598	587	168
機能訓練	64	1,855	1,501	997	858	
音楽療法	39	507	549	417	90	
グループセラピー	7	189	262	189		
合計		3,904	3,796	2,201	1,535	168
訪問マッサージ	30	3,231	2,885			

※訪問マッサージは、マッサージ業者と利用者個人の契約によるもの。

音楽療法(月2回実施)

音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などをはかった。

目的別に4種の小グループを構成し、音楽の特性を生かし各機能の向上を促した。

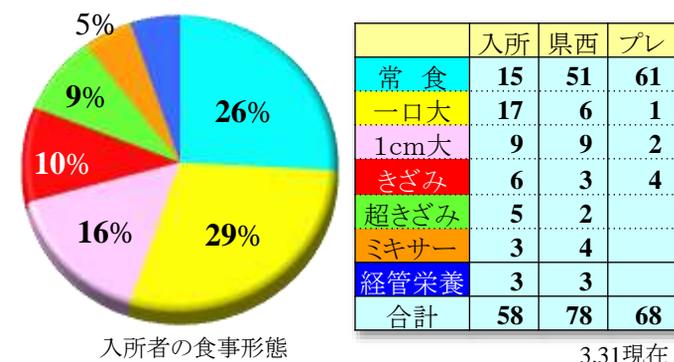
12. 給食の状況

(1) 食事提供実績

厨房は、足柄療護園とプレアデスホームの2箇所で開催しており、プレアデスホームの厨房では、ホームの食事とプレアデス通所の昼食を提供している。給食管理はともに、栄養士業務も含めて日清医療食品(株)に業務委託している。合計提供食数は、特に短期入所分が減少し、109,074食であった。

食のあり方検討会において食形態やソフト食等の内容について検証を行うとともに、食のイベントの検討確認を行った。

① 食事の提供形態; 入所者の常食は26% (前年26%)



	食数
朝食	32,268
昼食	44,498
夕食	32,308
合計	109,074
施設	59,566
短期入所	2,259
県西福祉C	8,347
プレアデス	11,876
ホーム	22,424
職員他	4,602

4月～3月 給食提供実績

② 栄養量

	足柄療護園	プレアデス
カロリー	1674 k ^{カロ}	1997 k ^{カロ}
たんぱく質	64.8 g ^{グラム}	70.7 g ^{グラム}
脂質	46.8 g ^{グラム}	47.1 g ^{グラム}
カルシウム	589m ^{グラム}	603m ^{グラム}
塩分	7.2 g ^{グラム}	7.4 g ^{グラム}

(カロリー制限食も含む)

③ 食事費用概算

給食費は、入所利用者より1日1,430円をいただいている。(短期・通所は朝400円・昼650円・夕食550円)

ひとり当たりの1日の給食にかかわる費用は委託料の値上げもあり1,928円であった。

	令和元年度	平成30年度
業務委託費	38,374 千円	37,778 千円
食材費	34,218 千円	34,264 千円
給食費合計	72,592 千円	72,573 千円
1食当	666 円	653 円
1日当	1,928 円	1,890 円

※給食にかかわる光熱費は含まず。

(2) 食のイベント

誕生日メニューやちょっと贅沢を味わう「お誕生日メニュー」やイベントによる食事提供を行った。

4月3日	お花見弁当	10月29日	手打ちそば
6月21日	あじさい弁当	11月10日	お刺身御膳
7月7日	七夕そうめん	12月25日	クリスマス
9月13日	お月見井	1月1日	お正月メニュー

2月3日	恵方巻き
3月3日	ひなまつり

その他、毎月地域の御膳を提供。

(3) 給食検討会

利用者参加もしている給食検討会を年2回開催した。会議には、調理師や委託業者の担当者も加わり、給食に対する要望の実現に向け検討を適切に行った。

開催日	参加者
7月24日	利用者12名 業者3名
11月27日	利用者10名 業者2名

給食検討会開催状況

(3) 食のあり方検討会

年4回「食のあり方検討会」を開催し食形態やソフト食の推進について検討を重ねた。「食事観察依頼書」「食事観察経過評価用紙」を用いて、適切な食事形態の確保に他職種で取り組んだ。加齢による摂食嚥下機能の変化や栄養摂取面を評価し、安全な食事提供を徹底した。施設外にも参加を募り、摂食・嚥下に関する研修を開催した。

13. 権利擁護の状況

(1) 苦情の受付状況

令和元年度は苦情の申し出はなかった。

(2) K-フレンズの活動

※K-フレンズ =かながわ身体障害福祉ネットワーク
(身体障害者自らが主となる権利擁護・苦情解決ネットワーク)

足柄療護園に年10回来園いただき、利用者から**30件の相談**を受け、施設への報告のもと適切に対処した。また、各種情報をいただいた。

(3) KWネットの活動

※KWネット =県西地区障害者施設権利擁護ネットワーク
(県西地区で活動するオンブズマン組織)

年4回の訪問相談を実施し、新たに相談を希望する利用者も増えた。また、ご家族相談も好評で昨年より多くのご家族が面談を希望し実施することができた。

(4) 身体拘束ゼロに向けた取り組み

身体拘束マニュアルに沿って、ご本人ご家族と同意のうえ、実施している内容のうち、足柄療護園入所者**12名17項目**(前年10名14項目)、短期入所利用者**5名5項目**(前年7名10項目)、通所を含め**合計25項目**が身体拘束・行動制限に該当している。解除した方は**3名**であった。

拘束内容	目的	件数
ベッド柵	転落防止	6
センサー設置	外出防止	3
トイレテーブル	座位保持	3
トイレベルト	座位保持	2
胴体ベルト	転落防止	3
車いすベルト	転落防止	4
その他		4

身体拘束状況

(5) 成年後見制度等利用の推進

足柄療護園入所者58名のうち、**23名**(前年度17名)が制度を利用している。プレアデスホーム利用者31名のうち後見制度利用は**10名**となり、社協の安心サービス利用は**9名**となっている。

(6) 人権チェック調査結果

12月に職員に対して、利用者支援にかかわり自らを省みる機会として、また利用者の人権を尊重するうえで必要な心構えを共通の認識とすることを目的に『**人権チェック**』調査を実施した(回答92名)。

平成30年の調査結果と比較すると、極端な変化は見られなかったものの全体的には評価が下がっている。特に、評価の低い項目について前年と比較してさらに評価が下がっており、結果を受けた対策を講じていく必要がある。最も評価の低かった項目は、毎年同じで『他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある』であった。

評価の低かった項目

他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある。

最近、特に利用者へのサービス提供に関する悩みを持ち続けている

最近、特に仕事にやる気を感じない事がある

昨年に比べて評価の下がった項目

利用者の人格を尊重した接し方をしている。

他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある。

利用者からの要望や申し出について、真摯に耳を傾けている。

昨年に比べて評価の上がった項目

飲み会など施設外の場所で、利用者にかかわる話題を取り上げたことがある。

利用者の言葉遣いや歩き方などのマネをしたことがある。

命令調になったり、大声で叱責したりしてしまうことがある。

14. 安全管理の状況

(1) 防災

防災計画に基づき、避難訓練・防火訓練を実施した。福祉避難所として協定を結んでいる南足柄市より、サポート事業を活用し、防災食150食分を補助いただいた。

月日	内容	
6月20日	総合訓練	居住棟1階センターより出火を想定した避難訓練、通報訓練、消火器を使用した消火訓練実施。
9月26日	部分訓練	管理棟2階ダイレームより出火を想定した避難訓練、通報訓練。
12月19日	部分訓練	居住棟1階娛樂室より、出火を想定した避難訓練、通報訓練を実施。消防署員指導による救命救急、AEDの使い方講習を開催。
3月16日	総合訓練	夜間帯を想定した訓練。1階管理棟洗濯室より出火を想定した消火訓練、避難訓練、通報訓練を実施。

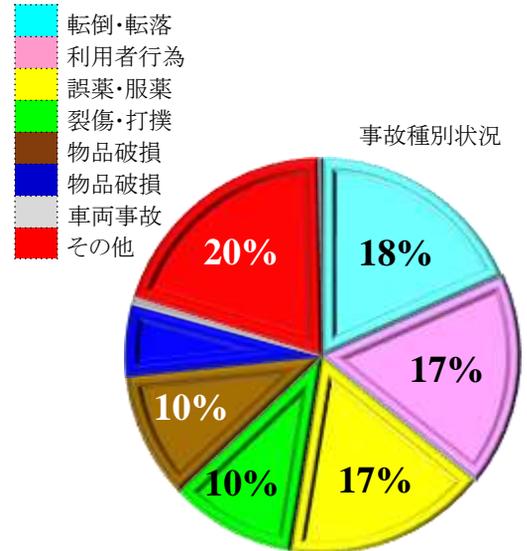
足柄療護園 避難訓練等実施実績

(2) リスクマネジメント（事故報告）

リスクマネジメント報告書による**事故件数は327件**で前年の383件を50件ほど下回った。事業所別では足柄療護園が**238件**（前年250件）で、**全体の72%**（前年65%）を占め、次にプレアデスで69件であった。内容別では、部署により違いが見られ、足柄療護園では転倒・転落が最も多く21%、次いで誤薬・服薬が20%となっている。一方、プレアデスでは利用者行為によるものが39%を占める。**救急車による搬送**を必要とした大きな事例（ライフガード）が**1件**（急変による救急車搬送）発生した。

	足柄療護園	県西福祉C	プレアデス	合計	
転倒転落	50	5	5	60	18.3%
利用者行為	27	3	27	57	17.4%
誤薬服薬	47	4	4	55	16.8%
裂傷打撲	28	1	5	34	10.4%
物品破損	23	1	10	34	10.4%
医療ケア	17	1	1	19	5.8%
車両事故		1	1	2	0.6%
その他	45	4	16	65	19.9%
ライフガード	1			1	0.3%
合計	238	20	69	327	
	72.8%	6.1%	21.1%		

リスクマネジメント報告書内容



(3) インシデント(ヒヤリハット)

ヒヤッと共有書によるインシデントの件数は**1年間で192件**と前年の211件に若干減った。内訳では、車いすから落ちそうになっていたなどの**転倒/転落**が最も多く66件（前年47件）、薬の飲み忘れなど服薬にかかわる内容は47件（前年31件）、自力による移乗などの**利用者行為**にかかわる内容が**22件**（前年37件）であった。

部署別では、足柄療護園が134件（前年153件）と約7割を占める。

15. コミュニティ(地域交流)の状況

(1) 地域との交流

秋まつりやプレアデス祭では多くの地域の方々に参加していただいた。足柄ふれあいセミナーの開催については、職員体制が整わずやむを得ず中止した。



足柄療護園秋まつり

(2) 利用者講演

障害者福祉啓発活動として実施し、12年目を迎えた。

施設見学时にも講話を行うなど、36回1,929名に対して実施し、累計聴講者数は**10,137名**となった。

月 日	依頼元	対象者	参加者
2019.6.27	神奈川県立大井高校	社会福祉援助技術選択者2年生	11
2019.9.19	神奈川県立足柄高校	1,2年生	480
2019.10.14	小田原短期大学	保育学科1年生	105
2019.10.16	北里大学医療衛生学部	言語聴覚療法学専攻1年生	32
2019.11.6	足柄台中学校	1年生	54
2019.11.12	日本女子大学	社会福祉学科1年生	110
2019.12.4	都立東部療育センター	権利擁護研修	70
2020.2.10	神奈川県立高浜高校	1年生	240

主な利用者講演実績(出張講演先の一覧)

(3) 地域自治会との連携

『ふくらん』の出張販売を機会として、自治会のお祭りや文化祭など**18の自治会(前年17)**にお声掛けいただき、地域との交流をはかることができた。(荒天により4自治会でイベント中止となった)

また、足柄療護園、県西福祉センターでは「三竹」、プレアデスでは「関本」の自治会文化祭に利用者作品を出展させていただいた。



利用者講演
於:神奈川県立足柄高校

16. 広報の状況

(1) 広報誌『やまぶき』の発行

広報委員会において広報誌「やまぶき」の発行を行った。今年度から年3回の発行に切替え、利用者の活動や生活の様子を伝えることを主に利用者・ご家族、地域自治会、関連業者、行政、関連機関等へ約**650部**印刷し配布した。

通巻	発行日	主な内容
69号	4月30日	令和元年度事業計画 各事業所ニュース 他
70号	7月31日	平成30年度事業報告 プレアデス祭報告 他
71号	12月31日	新年のあいさつ 秋まつりのお礼 他

やまぶき発行実績

(2) ホームページ&SNS

県西福祉会のホームページは、定期的な活動を中心に更新を行った。また、県西福祉会、足柄療護園、県西福祉センターのフェイスブックページを活動やイベントを中心に随時更新した。また、『求人特設サイト』を運用し求人の発信も行った。

ふくらんについては専用のホームページやフェイスブック(“いいね!”は**1,260**)、インスタグラム(フォロワー**970**人)を活用し、認知力向上につとめた。

17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他

(1) 実習生・研修生の受け入れ

足柄療護園では言語聴覚士の実習や大井高校の実習や教員免許取得介護体験実習を受入れた。

プレアデスでは、小田原短大3名、鎌倉女子短大2名の保育実習を受入れた。また、小学生の地域学習や中学生、高校生の職場体験を受入れた。

	内容	依頼先	受入数	実習期間
足	ST実習	北里大学	1	5/27～7/6(6週間)
足	ST実習	茅ヶ崎リハ専門学校	2	3/2～3/27(4週間)
足	援助技術	県立大井高校3年生	7	6月、10月(3日)
足	介護実習	県立大井高校2年生	13	11月7日
足	教員免許取得	神奈川県社協	1	8月12日～16日
足	教員免許取得	神奈川県社協	1	9月2日～8日
ブ	地域学習	南足柄小学校2年生	29	12月12日
ブ	保育実習	小田原短期大学	3	8月19～31日
ブ	保育実習	鎌倉女子短期大学	2	8月5日～19日
ブ	職場体験	足柄台中学校	2	11月6日～7日
ブ	職場体験	足柄高校	1	7月24日～26日

実習受入実績

(2) 自治会(三竹会)活動

施設入所者自ら自治会を組織し活動を実施してきたが、平成22年度より役員選出が滞り、実質活動休止状態となっている。

(3) ご家族との交流等

足柄療護園全入所者のご家族を対象に足柄療護園家族会を組織している。会費納入者は**32**家族。5月と12月に家族会全体会を開催し、終了後、施設清掃にご協力いただいた。また、5月には親睦パーティーを開催し、職員・ご家族同士の親睦を深めた。秋まつりではバザー品の販売を行い売り上げは**81,895**円であった。また、マイクシステム、大型スピーカーなど音響システムの寄付をいただいた。(令和元年度会長:鍋谷正美氏)

プレアデスでは、8月にご家族をお招きし、夕日の滝でバーベキューを行った。また、ホーム利用者のご家族には12月の大掃除をお手伝いいただいた。



プレアデスBBQ



足柄療護園家族会懇親会

5月 26日	家族会総会 参加22家族30名	総会 / 懇親会 施設清掃協力
10月 13日	秋まつり準備 役員等6家族9名	バザー品の 値付け
10月 20日	秋まつり協力 役員等7家族10名	秋まつり協賛 バザー販売等
12月 22日	家族会全体会 参加16家族20人	クリスマス会協賛 施設清掃協力
3月 3日	役員選出会議 役員等6家族6名	役員選出

足柄療護園家族会活動実績

(4) 施設見学

足柄療護園では、施設見学が大変多く、横浜市中区民生児童委員協議会92名をはじめ、**28団体827名**(前年11団体208名)が見学に来られた。施設見学の際には、**利用者**の講話など足柄療護園独自の取り組みを行った。また、見学時には「ふくらん」の見学や出張販売を組み合わせ、購買機会につなげることができた。

1月より施設見学を有料制に切り替え、協力利用者への謝礼やふくらん商品のお土産などとセットにして受入れている。



横浜市中区民生児童委員協議会
見学92名

令和元年度 部門別重点実施事項 実施報告

足柄療護園	年度重点実施事項		実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	わくわく委員会を中心に活動の整理・統合・方向性作りを行い、より個別支援計画運動とともにボランティアとの連携した活動を行う。	3	個別支援計画に対して日中活動担当者で連携しながら対応するなどできた。ボランティアの方々と連携するなどし、活動など対応することができた。
魅力的な就労支援サービスの確立			
その人らしさを引き出す役割支援の強化	利用者講演の継続的な支援と個別支援に基づいた、個々の支援強化を行い、施設生活におけるその人らしさの生活につなげる。	5	利用者講演の継続的な支援を行った。また、個々の支援計画にあわせて各担当が支援を行い、居室の様態替えをはじめとしてその人らしい生活となるように支援を行うことができた。
意思決定支援の強化	個別支援計画等の利用者意向確認の検証を行う。また、ご家族の意向確認とともに意思表出困難な方の意向をできる限り確認できるようにする。	3	個別支援における利用者意向確認を行うとともに、意思表出困難な利用者に対してはご家族や関係者と密に連携し対応を行うことができた。
組織体制の強化	各フロア会議等の会議のあり方と検討を行う。さくさく委員会を中心に効率的な業務の見直し、職員の負担軽減のための対策を行う。	2	フロア会議を各フロアで個別支援などについて情報共有し対応について随時検討する重要な位置づけとし開催した。職員の負担軽減策については未着手である。
権利擁護意識の向上	権利擁護委員会による、職員に対する利用者一人一人への権利意識の向上と成年後見人制度のさらなる利用促進を行う。	4	権利擁護委員会をはじめとし、職員の利用者対応・権利擁護の意識がしっかりと対応することができている。後見人制度についても必要な方に対して対応することにより利用促進をはかることができた。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	専門職と連携し利用者個々の支援方法をチェックしより安全な支援を実現する。組織体制の強化とともに中堅職員等のリ・アップの向上を目指す。	3	リハビリ担当と共に食事摂取や座位などのポジショニングなど対応していただくことができた。中堅職員の能力向上に向けた対応はできなかった。
利用しやすい地域サービスの実現	圏域内外の事業所等と連携をはかり、多くの方々短期入所を利用できるよう対応する。医療ケア等の対応のため、喀痰吸引「不特定多数」対応職員の確保を行う。	4	職員の体制が整わず一時的に通常の短期入所の受入れを停止した結果、稼働率は低下した。あんしんネットの利用者については継続して対応することができた。
地域生活拠点の強化に向けた準備	県圏域における地域生活拠点等整備事業あり方を考える検討委員会等に参加し、緊急短期入所受入れ体制の整理、検討などの準備を行う。	2	新たな拠点整備に向けた体制の検討を行ったが実現には至らなかった。短期入所における緊急受入れ要請に対応し、今後の受入れの参考とすることができた。
共生型サービスの検討	短期入所事業の稼働状況に合わせた65歳以上の継続利用のための共生型サービス実施についての検討を行う。	2	利用状況の調査を行った結果、60歳代で短期入所を利用されている方はいないことから、短期入所の65歳以上の受入についての検討については行わなかった。
教育機関及び地域との連携強化	学校等との実習生の受入れやボランティアの継続的な受入れの調整を行い連携の強化をはかる。	4	教員免許取得等の大学や専門学校の受入れを行うなどを行いながら学生をボランティアで受入れることができた。

泉西福祉センター	年度重点実施事項		実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	日中プログラムを強化する。年間計画に沿った外出プログラムを実施する。新たなグループ活動を検討する。食のイベントの見直しと強化を行う	3	生活介護では毎月創作活動を考え取り組んだ。年間の外出は地球博物館など3回行った。3事業の交流をはかる食のイベントは継続し、新しいレクリエーションを取り入れた。
魅力的な就労支援サービスの確立	作業の効率化や作業の安定化をすすめ工賃向上に努める。新たな受注先を確保する。工賃規定の見直しを行い平均工賃の引き上げをはかる。	4	月の平均工賃は1,578円アップの5725円となった。時給換算においても時給191円と昨年度に比べ56円アップを実現した。受注においては年間を通して確保できた。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	個別支援に沿って個々の活動を明確化し強化する。利用者講演活動に意欲的に取り組めるように支援する。	4	個々のニーズ、障害特性にそった支援を提供した。定期的にモニタリングを実施し個別支援計画に反映させた。
意思決定支援の強化	相談支援事業所との連携を強化し情報の共有をすすめる。サービス利用計画に沿った支援を実施し定期的なモニタリングの強化する。	4	相談事業所と連携しサービス利用計画のニーズや施設の役割を理解し個別支援計画を作成した。相談事業所が行うモニタリングでは新たなニーズに対応した。
組織体制の強化	各事業の業務見直し改善をはかり、体制を強化する。各事業の特性を活かしたサービスを提供する。	3	生活介護では男性の入浴者が多くなり、男女の入れ替えをなくすため、木曜日を男性入浴者のみにするなど業務の改善を行った。
権利擁護意識の向上	利用者・家族への成年後見制度の利用をすすめる。権利擁護研修への参加し利用者接遇意識を高め人権意識の向上をはかる。	3	利用者接遇意識について、会議等で人権意識の向上をはかった。新たに成年後見制度を利用する者はいなかった。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	研修に積極的に参加できるように体制を整え、専門知識・マネジメント力を強化する。各職員の役割を強化し支援員の能力向上を行う。	3	積極的に研修に参加できるように調整し、外部研修では相談支援従事者研修、サービス管理責任者研修に派遣した。
利用しやすい地域サービスの実現	地域、関係機関等へ通所事業の役割を周知し、より利用しやすいサービスを提供する。年間利用者延べ人数10000名を目指す。	2	夏場の土曜日営業の中止や、下期の短期入所の縮小などの影響により、3事業合計で延べ利用者数8,602名と昨年度を下回る結果となった。
地域生活拠点の強化に向けた準備	地域の適正・ニーズにそったサービスを提供する。また、事業拡充に向けた新たなサービス提供のあり方の検討を行う。	2	個々の適正、ニーズにそった通所サービスを継続提供したものの、短期入所事業所と組み合わせた新たなサービスの実現は断念することとなった。
共生型サービスの検討	通所での介護保険サービスである「共生型サービス」実施に向けた準備を行う。	1	サービス実施に向けた検討を行ったものの、介護保険サービス実施に伴うシステム導入など費用面でのハードルが高いことがわかり着手が遅れている。
教育機関及び地域との連携強化	養護学校・特別支援級の体験実習の受入れを強化する。定期的な情報交換を行いニーズに合わせた体制を整える。	4	生活介護、就労継続支援B型での養護学校の体験実習を行い、卒業後の受入れの準備を行った。また、養護学校や各事業者と定期的な情報交換を行った。

令和元年度 部門別重点実施事項 実施報告

プレアデス	年度重点実施事項	実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	支援の内容等を等を検証し、生活介護から就労Bへの移行や就労Bから生活介護へのスムーズな移行の検討を行う。	4 各事業所で移行対象の利用者を候補者として設定し、移行のためのシミュレーションを行い、事業所としての課題、個々の利用者の課題を抽出した。
魅力的な就労支援サービスの確立	地場企業からの新規作業受注の開拓と、施設外就労の支援方法の再検討を行うとともに、平均工賃アップに向けた検討を行う。	4 共同受注窓口を活用し、新たな受注作業先を開拓したことで、職員が行っていた一部の作業を利用者の作業に移行でき、平均工賃を約1000円上げる事ができた。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	利用者個々のストレンクスを活かし、可能な限り日々の生活の中で利用者主体の活動を増やしていく。	4 イベント活動について、準備の段階から利用者に関わって頂き、当日の進行、活動後の振り返り報告まで利用者に務めて頂いた事で利用者の自信につながった。
意思決定支援の強化	個別支援計画時におけるニーズとデマンドの違いを分析し利用者の意思決定を今まで以上に反映して策定する。	4 研修で得た手法を用い、ニーズとデマンドの抽出を行い、グループディスカッションを通して他者の視点を加え、より利用者の想いに寄り添った計画を策定した。
組織体制の強化	毎月実施していたプレアデス会議や個別支援会議等の在り方を見直し、職員の負担軽減と業務の効率化をはかる。	4 緊急事項について書面による報告とした事でプレアデス全体会議を2ヶ月に1回に削減することができた。個別支援会議についても予め議題事案のアンケートを取る事で会議時間を短縮することができた。
権利擁護意識の向上	プレアデス全事業所合同での、性的・身体的虐待等の人権研修を実施する。	4 12月に全事業所職員合同の会議を実施。「困難ケースに対するチームアプローチの実践」をテーマにグループディスカッションを共通認識を高めた。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	意思決定支援を反映させるために、最新の福祉情勢を踏まえた、アセスメント及び個別支援計画の精度向上に向けた勉強会等を実施する。	4 全職員に個別支援計画の研修を実施した。研修では、サービス等利用計画との連動性や多方面からの視点による支援の重要性と支援の可能性について再確認した。
利用しやすい地域サービスの実現	生活介護と就労継続支援B型事業の狭間の方の、新規利用者受入れを検討する。年間利用者延べ人数13750名を目指す。	2 事業所ごとに狭間の方の受入れにあたって提供するサービス及び職員業務の検討・見直しを行った。台風と風邪の蔓延により合わせて5日間の事業閉鎖により目標人数には達することができなかった。
地域生活拠点の強化に向けた準備	計画相談事業所、精神病院との連携をはかり、精神障害や発達障害の方の地域生活への移行の定着を支えていく。	3 各機関と定期的に情報交換連絡を行い、情緒不安定になった精神障害の利用者に対して、事業所の垣根を越えて地域でのチームアプローチで対応している。
共生型サービスの検討	60歳を超えた利用者の今後のサービス利用並びに、生活のあり方の検討を行っていく。	3 該当する利用者のご家族に対してアセスメント実施時に個別に今後の将来設計について話し合いを行った。多くの方から親戚き後の心配の声が上がった。
教育機関及び地域との連携強化	各教育機関からの実習生受入れ日程を調整し受入れ人数を拡大し、障害福祉に関心を持つ学生を増やしていく。	4 2校の大学より5名、高校から1名、中学校から2名の実習生を受入れた。実習生に合わせ理解しやすい方法で障害のある方も同じ地域の一員であることを伝えた。

プレアデスホーム	年度重点実施事項	実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	外出、通院、余暇支援など、個々の能力に応じたグループホームにおいての生活を個別支援と組み合わせ、生活向上を検討していく。	4 余暇支援は個別支援計画に沿って実施した。通院は訓練的に同行通院から単独通院が行えるよう個々の能力に応じて移行可能な通院者には実施した。
魅力的な就労支援サービスの確立	就労定着に向け、日常の様子から本人の悩み、相談等に応じたサポート体制を確立し、就労先、事業所先との連携により、定着強化する。	4 就労定着に向け、企業、移行支援事業所、就労B事業所等と連携強化した。定期的な企業等との面談にも参加し、企業先での本人の様子を伺い、世話人も情報共有した。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	グループホーム内に置いて、個々の意向や特徴を生かした役割を検討し、個々が主体的に生活できるよう生活支援を検討する。	4 ホーム内で、清掃や雨戸閉めや掲示板の確認など、共有場所を中心に個々の意向や特徴を主体的に取り組めるよう役割を決め、日々、担当利用者で実施している。
意思決定支援の強化	意思決定困難な利用者においても最大限、意思決定に寄り添う工夫ができるよう、ご家族・関係者にアセスメントを行っていく。	4 ホーム生活だけでなく、日中支援事業所も含め、各機関、ご家族等と連携し、本人の意向に寄り添える関わり方やコミュニケーション方法等を検討してきた。
組織体制の強化	GH専従職員と世話人との情報共有強化のため、会議内容の検討を行う。また、利用者の特性に応じた世話人配置転換も検討する。	4 毎月、世話人会議を実施し、必要に応じカンファレンス等を実施した。特に利用者を日々支える世話人の立場や着眼点、視点に着目し議題設定をして会議を行った。
権利擁護意識の向上	自らの能力に応じて、地域で生活できるよう権利擁護し、また、虐待防止や虐待に対する理解を深め支援の向上を目指す。	4 金銭管理、財産管理等について不安視されるケースについて話し合いを行い、後見人制度利用促進をはかった。また日常金銭管理サービスなどの権利擁護へと繋げた。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	世話人を対象に、利用者の障害特性を学習するなど、世話人会議等の議題にあげ、知識向上をはかる。	3 世話人会議を中心に議題を、意見交換や知識向上をはかった。また、世話人を含め、プレアデス職員を対象に処遇困難ケースへの支え方の研修を行った。
利用しやすい地域サービスの実現	相談機関等と連携し、空所部屋を利用し、緊急一時保護や体験利用の受入れを積極的に行い、今後のホームでの生活支援を本人と一緒に組み立てていく。	4 空所部屋を利用し、GH体験利用を実施することで安心して入居できるようにした。また、入居に向け、生活面の見直し、集団生活での必要なことルールなどを、個々に合わせて再確認することができた。
地域生活拠点の強化に向けた準備	やまさきホームを中心にGH事業の運営を安定化させ、今後の地域生活拠点となるGH運営を展開していく。	3 GH専従職員を中心に、対応強化をはかり、利用者増へ繋げ運営安定化に結び付けた。また、地区の文化祭等では、地域自治会や福祉会を通じ、GH運営への理解を深め、継続した運営につなげた。
共生型サービスの検討	高齢福祉に該当、または今後検討必要な利用者、家族関係者に対し、ニーズ調査を行い、意向確認を行う。	4 GH利用者の高齢化に伴い、本人、ご家族関係者と面談時等で、今後の本人の生活像について、話し合いを行った。今後も継続して意向確認を行う。
教育機関及び地域との連携強化	教育機関、養護学校の体験実習や地域のボランティア等の見学など、ホーム生活への理解を深める。	4 地域自治会や福祉会と連携、交流をはかり、模擬店出店の手伝いや片付け、清掃などボランティアとして参加できた。

令和元年度 事業報告

